
チェンジ ザ ライフ

yu-taro-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チェンジ ザ ライフ

【Nコード】

N5196BA

【作者名】

yu-taro -

【あらすじ】

杉原 準は俗に言ういじめられっ子だった。そんな自分をいじめてくる岡本 宗汰を憎んでいるが実際敵わない相手なので、あきらめていた。

が、あるサイトを見つけたことから準の「仕返し」が始まる。

プロローグ

ドカッ

バキッ

「カスが！おれには向かうからこうなるんだ！！」

荒地で少年 杉原 準 が叫んだ。

「うらあ！！」

殴られた大柄な少年が吹っ飛ぶ。

少年はすでに血まみれで、口もきけないような状態だった。

ものすごい勢いで空中に投げだされた少年を準はさらに追撃する。

重い一撃。

ひよろつとした体格の準からは考えられない威力だ。

周りに巻きあがった粉塵がその衝撃を物語っている。

「ガハア！」

少年が悲鳴を上げる

それを見てさらに準が馬乗りになり拳で執拗に少年の顔を殴打する。

「！！！！！！！！！！」

少年は声にならない悲鳴を上げるが、準はそれを無視した。

こうしているのは心地いい。

見知らぬ他人なら抵抗があるが、こいつは別だ。

俺がやられたことはこんなもんじゃないぞ。

毎日、毎日、殴られて、罵られて、笑われて、

そんな奴に反抗できず、負けている自分が何より腹立たしかった。

そしてこんな形でしか反抗できない自分を見てさらに腹が立つ。

それでもこうして嫌な奴を殴り続けるのは、気分がよかった。

第一話

ジリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリリ

心地よい朝に響き渡る不快な機械音。

騒音によって目覚めた準は邪魔されたことを不快に思いながらしび布団から起き上がりそのままリビングへと向かった。

準の家はごくごく普通の一軒家で、2階に自分の部屋があり、準はそこでパソコンをいじったりゲームをしたりして毎日無気力に過ごしている。

今日の朝ご飯は目玉焼きとレトルトの味噌汁、あとは昨日の残りものだ。

それらをほおばり、身支度をして、今日もいつものように学校へ向かう。

（行きたくない）学校に行くときいつも思う。またいじめられる。あんなクズに。

でも学校に行くことをやめたら、それこそ負けを認めるようなものだ。そんなことがあってはならない。俺はあいつより賢いんだ。大人の対応をすればいい。腕づくではかなわなかったって、いくらでもやりようはあるはずだ。

そう自分に言い聞かせ、また、今日もダメなんだろうなとも思いな

がら教室に入る

ガララア

ドアを開けるといつものみなれた教室。見慣れたメンツ。そして、見たくもない奴がいた。

「お、準じゃん。ちょうどよかった。宿題、やってきたよな・・・？」

夢に出ていた大柄な少年 おかもと 岡本 そつた 宗汰が言った。

大人と間違えられそうな体格だが、顔には少し幼さがある。

彼はこのクラスの中心人物であり、いじめっ子である。一言で言うとガキ大将といった感じだ。優等生で控えめな準にとってまさに対照的な存在だった。

そんな宗汰に準は毎日いじめられていた。

「うん、やってあるけど。」

されることは分かっている。要求されて、奪われる。反抗すると殴られる。

だからここは素直に渡すしかない。そう判断する自分が惨めだった。

「おお、そうかじゃあもらってくぜ。」

そんな宗汰の横暴をクラスのやつは見て見ぬふりをする。

宗汰は、はむかう者を、手助けする者を、自分に近づいてくる者を毛嫌いしているからだ。

大人しく渡す準。宿題など映されるだけだからどうだっていい。

ただ、人の下につくことが、嫌だった。

その後、結局宿題は返してさえもらえなかったが、ここで反抗しても暴力で制圧されるだけだ。

先生に言うのも手だが、それも駄目だ。

宗汰の親は、以外と権力を持っているらしい。どれくらいかはわからないが、今までの先生の反応から先生ではかなわない立場というのは明白だ。

授業中、準がしていることは、いつも空想。宗汰をぶちのめす方法を考えている。

でも実際にそれは叶わない。結局、どんな議論を交わしたって、それを暴力でつぶしてしまえば終わりなんだ。暴力に勝てるものは、暴力だけだ。勝つのはいつも暴力なんだ。

だから頭脳戦なんてことができる相手じゃないから、結局はこっちが殴られておしまいだ。

一度勝つてもどうせ復讐が来る。それではあいつに勝ったとは言えない。もっとあいつをぶちのめ

せて、かつ復讐されなくてやり過ごせるような方法なんてなかった。

それができるのは、夢の中だけなんだ。

第2話

「くそっ」

家に帰った時はアザだらけだった。いつものことだが、それでもムカつく。

下校前に、少し宗汰がイラついていた。それだけでどれだけの人が被害を食らったかわからない。ただ、今回は僕だった。

ポチッ

気を紛らわせるためにパソコンをやることにした。

ネットゲームをやっている時の自分は、とても強い。周りのユーザーからも頼られるし、何よりやっていて楽しかった。

パソコンを立ち上げたとき、いつものネットゲームをやるつもりだったが、やめた。

なんとなく、「強くなる方法」で調べてみる。

そんな方法はあるはずないのだが、簡単にできる護身術くらいあればいいなと思ったからだ。

いろんなサイトがある。その中の1つをのぞくと、ケンカの方法、有効的な技などが載っていた。

そのサイトに乗っていた動画から、次は動画サイトへと飛ぶ。

そこから、お笑いを見て、また違うところへ飛んで・・・

しばらくネットサーフィンを楽しんでいると、一つのサイトに行き着いた。

どこからどう来たのかがなぜか思い出せない。ほんの5秒ぐらい前のことなのに。

そのサイトは、背景が真っ黒で何だか不気味だった。

チエンジ ザ ライフ

このサイトでは現実を、あなたのお金と引き換えに作り替えることができます。

そのサイトには、これだけしか書かれてなかった。

(なんだこのサイトは?)

(まあたぶん釣りだろうな)

そんなこと思いながら、真っ黒のサイトから出ようとしたが、チエンジ ザ ライフのところがり

ンクになっているのに気付き、なんとなくクリックしてみる。

リンク先は、会員登録のページになっていた。

個人情報を入れる欄がいくつもあり、利用規約まであった。

（はあ？こんなサイトに会員登録とかあるの？個人情報盗られるだけじゃん。）

そう思ったが、「このサイトでは現実を、お金と引き換えに作り替えることができます」という言葉と、このサイトの妖しさは、なんだか少し魅力的だった。

次々に個人情報を埋めていき、最後に「会員登録」というボタンを押すと、また変なページに飛んだ。

一つの大きな空欄の上に「願いを書いてください」と書いてあり、その空欄の下に「見積もり」と書かれたボタンがあるだけ。

（ここに願いを書いて、その願いにかかる料金を「見積もり」するのか？たぶんできてピザー一枚届くとかかな？まあそれができたらかなり便利だけだな。）

たいして期待もせず、机の上に置いてある消しゴムをみつけて、「消しゴムの移動」と打ち込んで「見積もり」ボタンを押してみる。

見積もり結果 1円

注 情報が不足しています。

(どづいつことだ?)

とりあえず情報が不足しているようなので、もう少し詳しく入れてみることにする。

「東京都 区 町 123番地の2階 階段を上がってす

ぐ右の部屋にある勉強机の上の消しゴムを北の方角へ5センチ移動

」

(これでどづだ!!)

再び見積もりボタンを押す。

見積もり結果 30円

支払方法 お金を振り込むと念じてください。

(あほらし)

そう思ったが、財布が近くにあるので30円取り出してみた。

(念じる?そんなことで振り込める?それができたらどれだけ便利か。)

(まあやってみるか。 えっと30円振り込みます・・・でいいの
か)

「 !!! うわっ !!! 」

突然、 ほぼ同時に、 手に握っていた30円が感じられなくなり、 又、
机の上にあった消しゴムがものすごい速度で移動を始めたかと思う
と5センチ進んだところで突然止まった。

あいた口がふさがらないとはまさにこの事で、 いきなり起きた2つ
の非現実的な現象に準はついていけなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5196ba/>

チェンジ ザ ライフ

2012年1月14日13時52分発行